

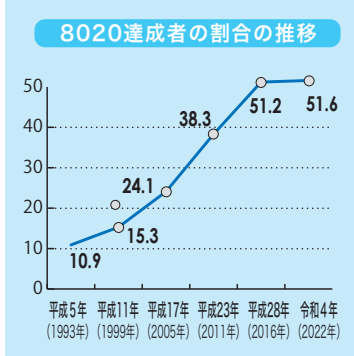
デンタルスタッフ・ミライ・プロジェクト ニュース vol.95

厚生労働省調査に見る 歯科保健医療の推移と成果 (令和4年歯科疾患実態調査)

厚生労働省は今年6月「令和4年歯科疾患実態調査」の結果を発表しました。過去24年間の歯科医療の推移と成果をご紹介します。

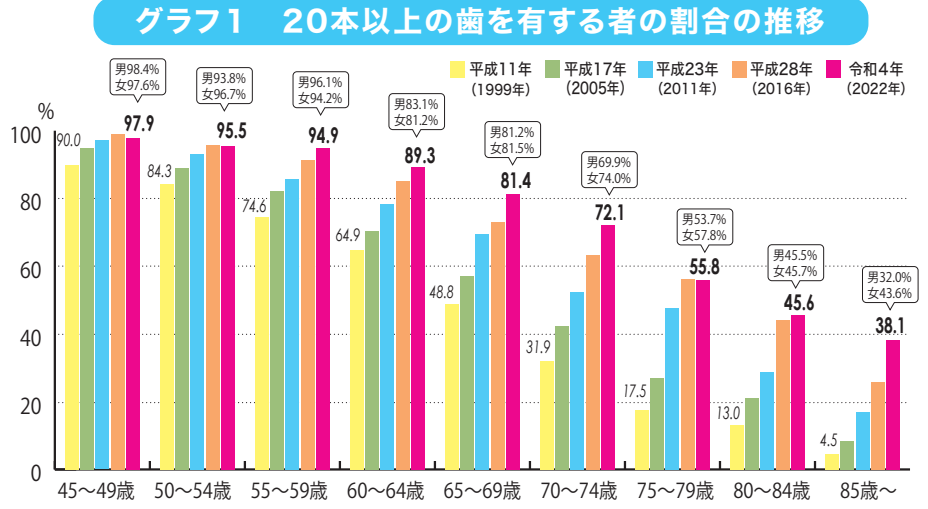
①8020を達成した人は51.6%と推計され前回とほぼ横ばい

1989年に8020運動が始まった当初は10%にも満たなかった8020達成者が2016年には50%を超えました。



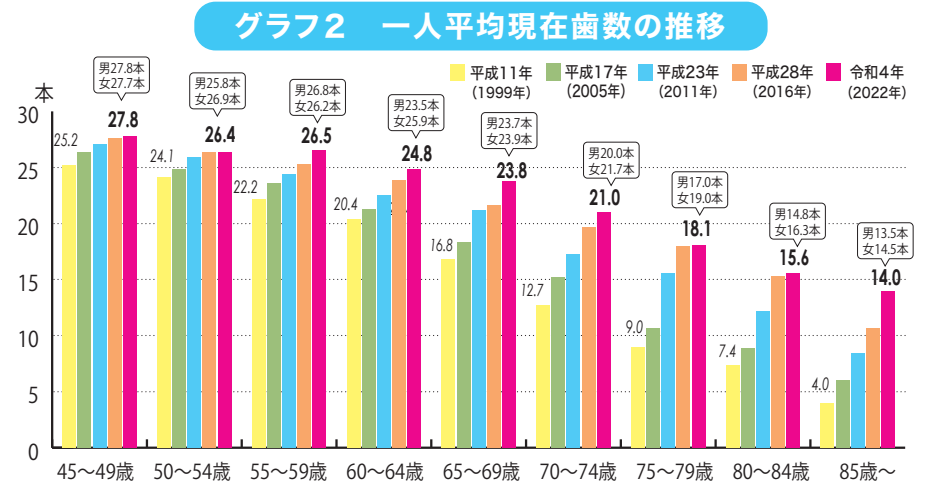
②20本以上歯がある人の割合が70歳以上の高齢者で大きく増加

24年前と比べると、70~74歳で2.3倍(31.9→72.1%)、75~79歳で3.2倍(17.5→55.8%)、80~84歳で3.5倍(13.0→45.6%)、85歳以上では8.5倍(4.5→38.1%)に増加しています。



③平均の歯数は6年前と比べて全ての年齢層で増加または横ばい

59歳以下では平均26本以上の歯数があります。24年前と比べると、70~74歳で1.7倍(12.7→21本)、75~79歳で2倍(9→18.1本)、80~84歳で2.1倍(7.4→15.6本)、85歳以上では3.5倍(4→14本)に増加しています。



DH Pro.セミナー講師 谷口 裕子先生による コラムのコーナー



スタンダードコース講師が 質問にお答えします!

スタンダードコース第5期生の受講生から臨床現場で普段疑問に思っている質問を頂きましたので、その中の一つを皆様と共有し紹介させていただきます。少しでも参考にして頂けたらと思います。

Question 1 電動歯ブラシをどういった方に薦めたらいいのでしょうか?

Answer



特にプラークコントロールが不可欠な患者さん、う蝕・歯周病のリスクの高い方、矯正治療中の方やインプラント治療を行っている患者さんには手磨きにプラス、音波電動歯ブラシのメリットも必ずお伝えしお勧めするようにしています。音波電動歯ブラシは、治療の一環として積極的に導入したいアイテムです。患者さんの背景(育児中・介護中、仕事が多忙)やニーズによってもお勧めです。またオーバーブラッシングでブラッシ



ング圧を入れすぎてしまう方には、過圧防止センサーにより押し付け過ぎを防げるタイプの音波電動歯ブラシもよいと思います。一般的な歯ブラシよりは高いため、金銭的に勧めづらいという一面はありますが、ネガティブな言い回しをしないように、お勧めする際には、電動歯ブラシの有用性と患者さんにとってどんな効果が期待できるのかをお伝えするようにしています。

